

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成27年11月】

■調査概要（データ対象期間：平成27年11月1日～11月30日）

- 調査期間：平成27年11月30日～12月22日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業24企業、製造業20企業、卸売業16企業、小売業36企業
飲食業14企業、サービス42企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計152企業>
- 調査項目：11月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が拡大

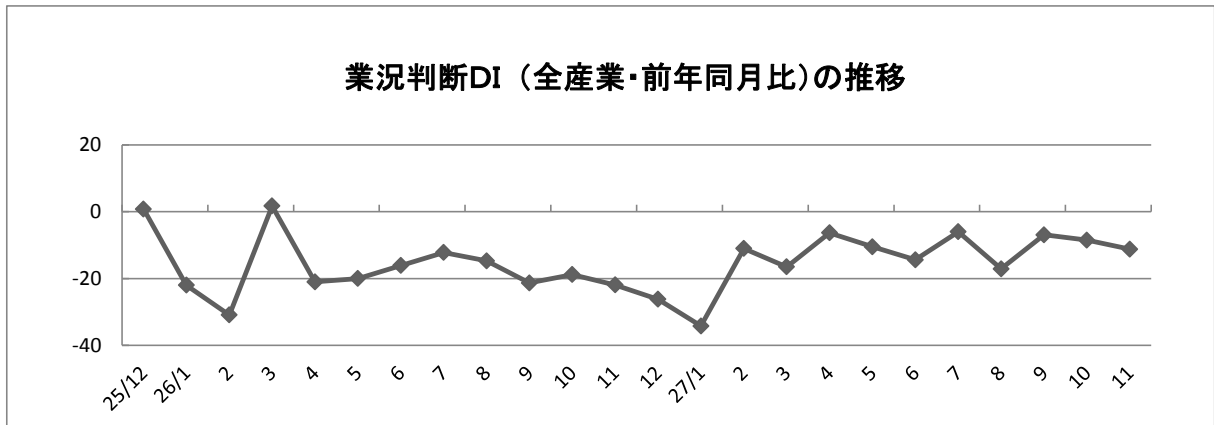
1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲8.5）よりマイナス幅が2.7ポイント拡大し、▲11.2となった。業種別では、製造業はマイナスからプラスに転じ、卸売業はマイナス幅が縮小した。サービス業、飲食業はプラスからマイナスに転じた。建設業、小売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲14.4）よりマイナス幅が2.0ポイント拡大し、▲16.4となった。業種別では、製造業はマイナスからプラスに転じた。卸売業は0からマイナスとなった。小売業、建設業、飲食業、サービス業はマイナス幅が拡大した。

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	13.8 (14.4)	61.2 (62.7)	25.0 (22.9)	▲11.2 (▲8.5)	12.5 (14.4)	58.6 (56.8)	28.9 (28.8)	▲16.4 (▲14.4)
建設業	0.0 (4.0)	79.2 (76.0)	20.8 (20.0)	▲20.8 (▲16.0)	4.2 (8.0)	66.6 (64.0)	29.2 (28.0)	▲25.0 (▲20.0)
製造業	35.0 (10.0)	60.0 (55.0)	5.0 (35.0)	30.0 (▲25.0)	30.0 (10.0)	65.0 (55.0)	5.0 (35.0)	25.0 (▲25.0)
卸売業	12.5 (20.0)	68.7 (53.3)	18.8 (26.7)	▲6.3 (▲6.7)	12.5 (20.0)	56.2 (60.0)	31.3 (20.0)	▲18.8 (0.0)
小売業	13.9 (12.1)	47.2 (60.6)	38.9 (27.3)	▲25.0 (▲15.2)	11.1 (9.1)	50.0 (54.5)	38.9 (36.4)	▲27.8 (▲27.3)
飲食業	7.1 (28.6)	57.2 (50.0)	35.7 (21.4)	▲28.6 (7.2)	7.1 (14.3)	64.3 (57.1)	28.6 (28.6)	▲21.5 (▲14.3)
サービス業	14.3 (17.4)	61.9 (67.4)	23.8 (15.2)	▲9.5 (2.2)	11.9 (21.7)	57.1 (54.4)	31.0 (23.9)	▲19.1 (▲2.2)

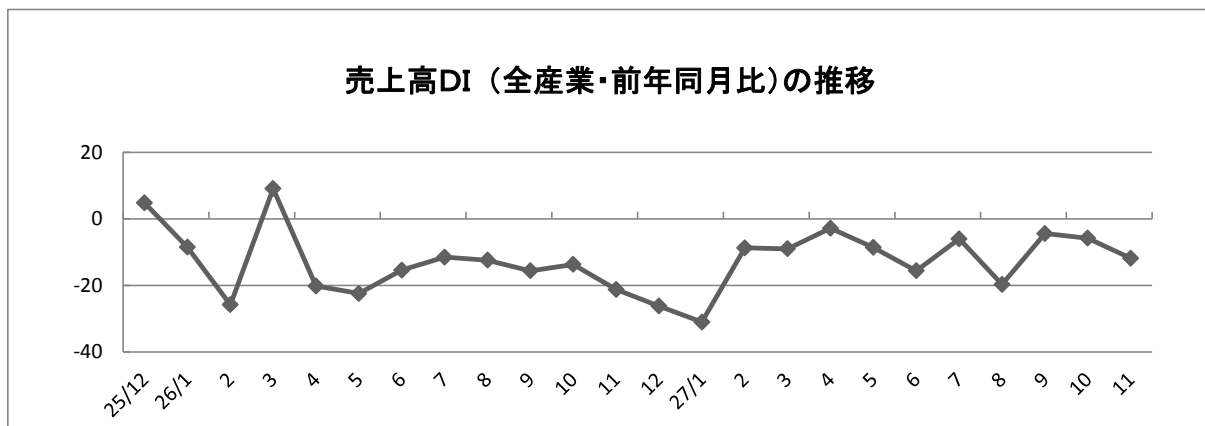
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲5.8）よりマイナス幅が6.0ポイント拡大し、▲11.8となった。業種別に見ると、製造業はマイナスからプラスに転じた。サービス業、飲食業はプラスからマイナスに転じ、小売業、卸売業、建設業はマイナス幅が拡大した。

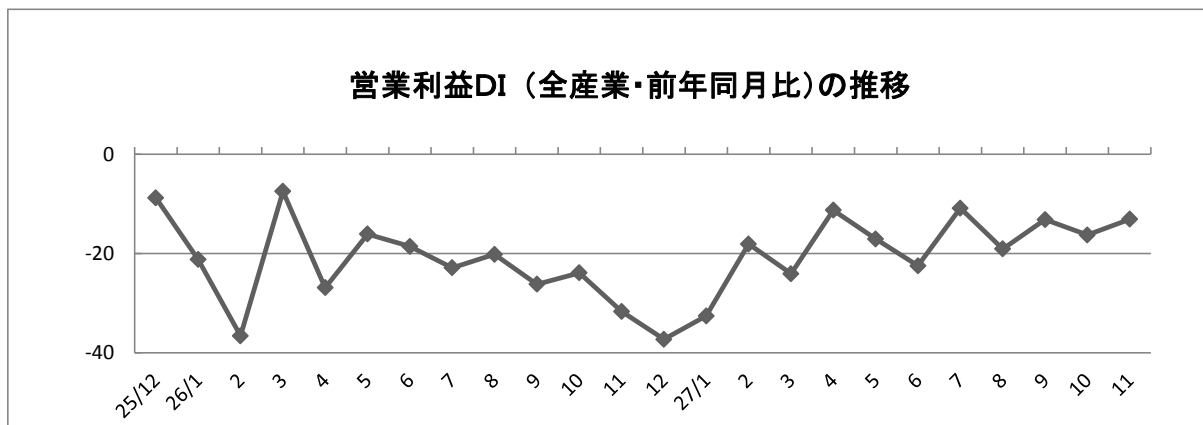


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲21.2	▲26.2	▲31.0	▲8.7	▲9.0	▲2.8	▲8.6	▲15.6	▲6.0	▲19.7	▲4.4	▲5.8	▲11.8
建設業	▲6.7	▲17.7	▲37.5	▲31.3	▲6.2	▲15.0	▲16.0	▲12.5	▲30.4	▲40.0	▲25.0	▲4.0	▲20.9
製造業	▲33.3	▲19.1	▲30.0	▲13.0	▲25.0	5.0	0.0	▲13.7	15.0	0.0	8.3	▲40.0	35.0
卸売業	▲43.8	▲31.3	▲25.0	▲6.3	▲26.7	0.0	▲25.0	▲18.8	▲11.7	▲11.8	5.9	▲6.6	▲18.7
小売業	▲29.2	▲50.0	▲48.3	▲11.5	▲16.6	▲21.2	▲20.0	▲27.0	▲18.0	▲25.0	▲15.1	▲18.1	▲25.0
飲食業	▲30.0	0.0	▲22.2	27.3	8.3	▲8.4	6.7	▲7.1	▲12.5	▲11.1	0.0	7.2	▲28.6
サービス業	▲5.0	▲24.3	▲19.5	▲5.7	5.0	14.7	0.0	▲10.6	10.0	▲20.4	2.2	13.1	▲9.5

3. 営業利益DI（前年同月比）

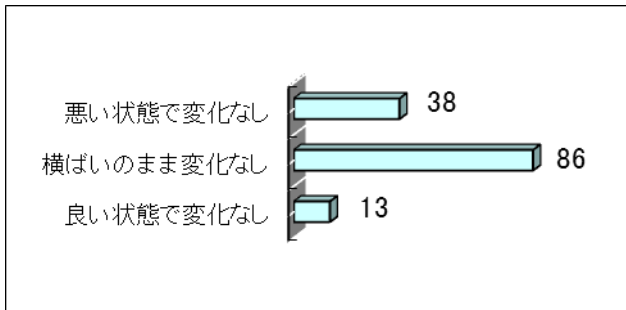
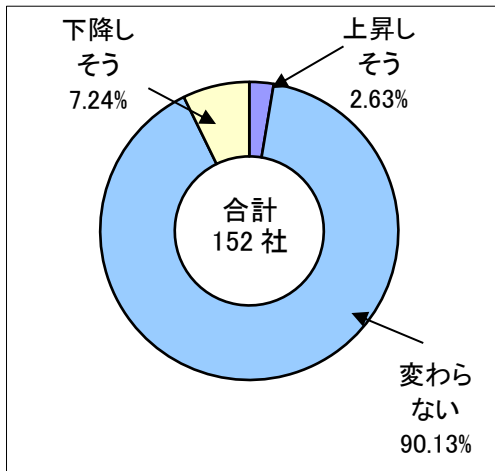
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲16.3）よりマイナス幅が3.2ポイント縮小し、▲13.1となった。業種別に見ると、製造業はマイナスからプラスに転じ、小売業、建設業はマイナス幅が縮小した。卸売業は横ばい、サービス業はプラスからマイナスに転じた。飲食業は0からマイナスとなった。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲31.7	▲37.3	▲32.6	▲18.1	▲24.1	▲11.3	▲17.1	▲22.5	▲10.9	▲19.1	▲13.2	▲16.3	▲13.1
建設業	▲13.4	▲35.3	▲37.5	▲31.3	▲25.0	▲20.0	▲32.0	▲33.3	▲39.2	▲32.0	▲33.3	▲36.0	▲20.8
製造業	▲50.0	▲28.6	▲35.0	▲26.1	▲45.0	▲10.0	▲30.4	▲31.9	15.0	▲17.4	0.0	▲30.0	20.0
卸売業	▲56.3	▲62.5	▲37.5	▲31.2	▲40.0	▲6.2	▲18.7	▲6.3	5.8	▲11.8	17.6	0.0	0.0
小売業	▲29.2	▲41.7	▲34.5	▲19.3	▲30.0	▲39.4	▲17.1	▲29.7	▲20.5	▲19.4	▲24.2	▲42.4	▲30.6
飲食業	▲40.0	▲36.4	▲33.3	27.3	0.0	▲16.7	▲6.7	▲7.1	▲31.2	▲11.1	▲11.8	0.0	▲28.6
サービス業	▲20.0	▲29.7	▲25.0	▲14.3	▲10.0	14.6	▲6.1	▲17.1	0.0	▲18.1	▲13.7	8.7	▲9.5

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



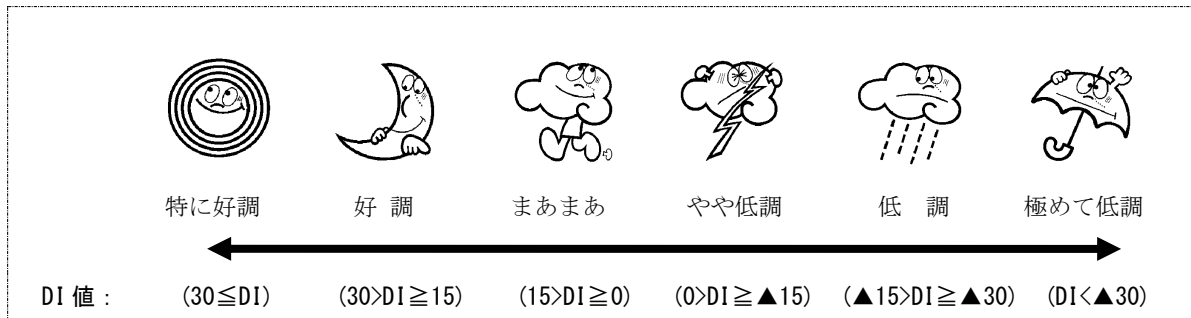
○平成27年12月～平成28年2月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ▲3.25ポイント減少し2.63%、「下降しそう」が3.22ポイント縮小し7.24%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲16.7)、製造業(5.0)、卸売業(▲12.5)、小売業(▲2.8)、飲食業(▲7.2)、サービス業(0.0)であった。

➡「上昇しそう」では、「新しい仕事が始まり、少しずつ増加するため」(製造業)、「12月の忘年会、1月の新年会等に期待するため」(飲食業)、「宴会・宿泊共に去年より予約状況は良いため」「現状で仕掛中のプロジェクトがピークを迎えるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

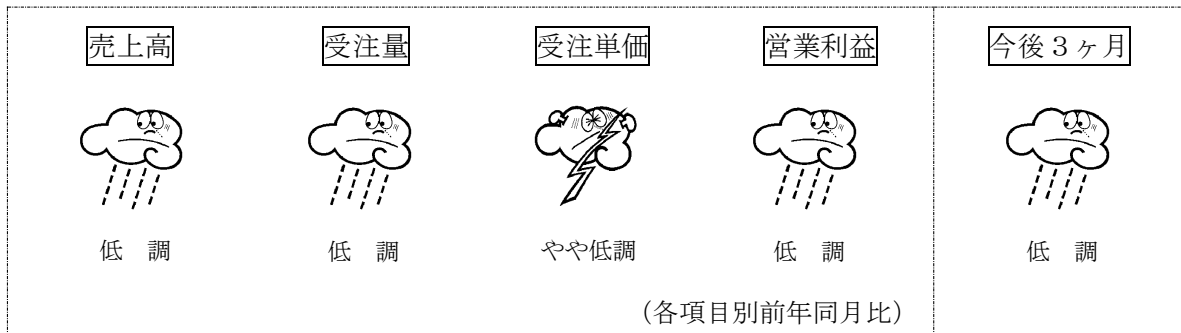
➡「下降しそう」では、「昨年は同じ時期に大型工事の受注があったが、今年は今のところ無いため」「受注工事が減少して今後が厳しいため」「成約に結びつかないため」「先行不安とデフレ、不況に逆戻りのため」(建設業)、「まだまだ原料の値上げが続くと思われるため」(製造業)、「決まりそうな案件が少ないため」「需要がないため」(小売業)、「寒さのため」(卸売業)、「暇な時期のため」「消費税10%の議論が不安につながるため」「明るい兆しが見つからないため」(飲食業)、「閑散期に入るため」「平成27年度求職者支援訓練コース数及び応募者数減少のため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<D I 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 6.7	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0	▲ 20.9
受注量	▲ 13.3	▲ 47.0	▲ 43.8	▲ 31.2	▲ 18.8	▲ 15.0	▲ 12.0	▲ 20.8	▲ 34.8	▲ 36.0	▲ 54.2	▲ 16.0	▲ 29.2
受注単価	0.0	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 6.3	▲ 6.2	0.0	8.0	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 20.0	▲ 8.3
営業利益	▲ 13.4	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0	▲ 20.8
見通し	0.0	▲ 5.9	▲ 6.3	6.2	6.3	▲ 5.0	4.0	▲ 8.3	8.7	0.0	▲ 12.5	▲ 8.0	▲ 16.7

<経営者の目・見方・e t c>

鉄工

- ・稼働は来年の夏以降まで中型物件が山積みのため、調整している状況である。
- ・松本地区は依然回復していない感じがする。中小企業は先行き不透明である。
- ・比較的、平穏な状況で年末が迎えられそうである。昨年末から今年秋まで当社の能力を超えるような大型物件の受注があったが、本来は自社にて消化可能な範囲が理想である。足元をきちんとかため、飛躍のきっかけをつかめるよう今後もアンテナを高くして営業をしていきたい。

総合建設

- ・業界の景気回復は2月の補正予算に左右されそう。

土木工事

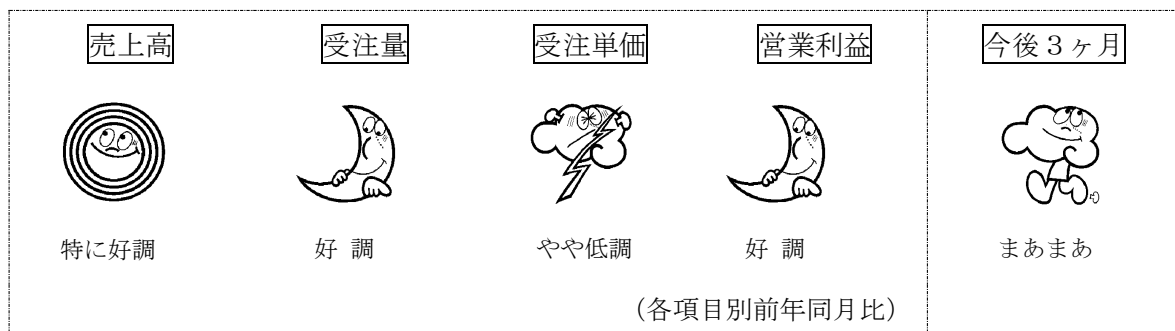
- ・県の出先機関(土木部)の公共工事発注率は概ね80%に達しており、今後年度末迄は大型補正でもない限り悪い状態で推移すると思われる。

建築工事

- ・公共事業が少なかったが、秋頃から入札が出始めたので、春頃までの仕事の見通しが明るくなった。

石材	・消費税増税以来デフレ不況の状態、そのうえ消費税を10%に上げたら財布の紐が益々固くなり先行不安である。消費税を10%には絶対に上げず5%に戻すべきである。
管工事	・冬期は年末年始のため売上は減となる。3月迄は手持ち工事で補うが、4月以降は見通せない。
電気工事	・例年に比べて静かな年末になると感じる。工場関係の景気が良くなると電気業界も忙しくならない。

2. 製造業



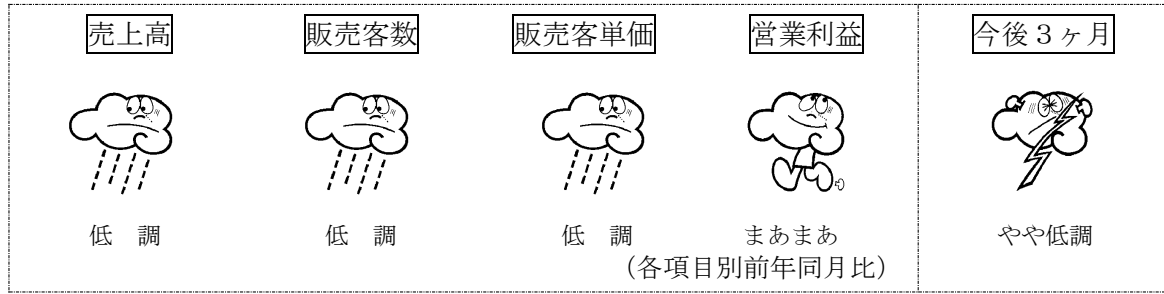
【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 33.3	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0	35.0
受注量	▲ 44.5	▲ 19.0	▲ 35.0	▲ 17.4	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 5.0	▲ 17.4	4.2	▲ 30.0	20.0
受注単価	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 20.0	▲ 17.4	▲ 8.4	▲ 25.0	▲ 10.0
営業利益	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0	20.0
見通し	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 20.0	5.0	8.7	0.0	▲ 5.0	▲ 17.4	▲ 4.2	▲ 10.0	5.0

<経営者の目・見方・etc>

小型情報機器組立	・個別の会社の仕事量がまばらで、先が見通せない事が多い。
印刷	・先行き不透明である。
金属塗装	・中国の景気減速が大きく影響している。
酒類	・比較的暖かったので観光客の入込は悪くなかった。紅葉の行楽シーズンは終わったが、まだまだ欧米人の観光客の姿が見える。秋以降、日本酒のシーズンともなり、ひやおろしを始めとする旬のお酒の動きがよかった。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 43.8	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6	▲ 18.7
販売客数	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 13.3	▲ 25.0
販売客単価	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 18.7	▲ 12.5	0.0	18.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 6.6	▲ 25.0
営業利益	▲ 56.3	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0	0.0
見通し	▲ 6.3	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.0	6.3	0.0	▲ 6.3	0.0	11.8	5.9	6.7	▲ 12.5

<経営者の目・見方・etc>

自転車

・バッテリーの付いた電気自転車の売れ行きが好調である。

機械工具

・営業売上予測がかためで出てくるので、2~3ヶ月先の見通しが立てにくい。それだけ市場の競争も激しい。

金属製品

・首都圏物件が一段落しており、秋口の動きはあまり無い。この先の案件は少ない状況だが、相場の下落は底を感じるので年末から年明けの需要に期待する。

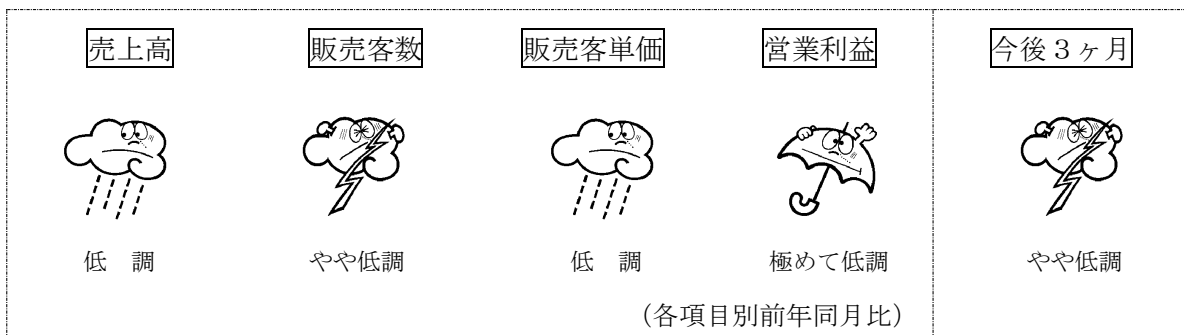
土産品

・松本地区は観光の閉鎖期に入り依然厳しい状況だが、経営全般としては上昇傾向にある。

青果

・暖冬の影響があり、入荷と販売、また、売りたい商品がマッチしない事が多々見られた月となった。特にリンゴはギフト販売に出荷が間に合わず売り場にも影響が見られた。

4. 小売業



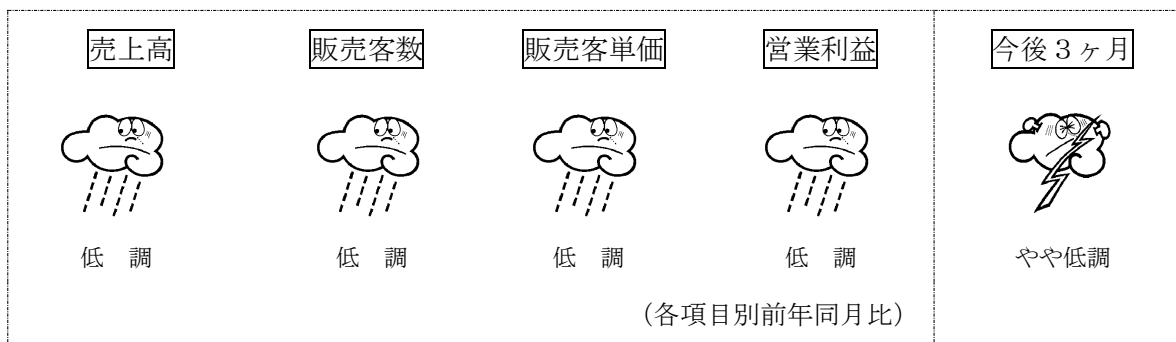
【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 29.2	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1	▲ 25.0
販売客数	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 41.4	▲ 30.8	▲ 40.0	▲ 12.1	▲ 5.7	▲ 24.3	▲ 10.3	▲ 30.6	▲ 27.2	▲ 18.2	▲ 11.2
販売客単価	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 31.1	3.8	▲ 13.3	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 16.2	▲ 12.8	▲ 22.2	▲ 12.1	▲ 27.2	▲ 22.2
営業利益	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 30.6
見通し	0.0	▲ 8.3	6.9	3.9	6.7	6.1	2.9	2.7	▲ 7.7	2.7	0.0	▲ 15.2	▲ 2.8

<経営者の目・見方・e t c>

パン	・巷では11月に入るとそろそろX'masの販促に取り掛かる。時期的に早いと感じるが、時流に素直に乗る事も大切である。
菓子	・バターの仕入れが困難で商品を切らしてしまう事がある。通年型の観光でお客様は多かった。
ショッピングセンター	・11月の松本地方の平均気温が過去最高を記録し、衣料品の動きに影響が出た。天候不順による売上減少は全国的な傾向であった。衣料品以外は順調に推移し、消費意欲もやや持ち直してきている。
石油製品販売	・11月は気温が高く、販売が激減となった。
住宅機器	・11月中旬ごろから商品が動いている。
生鮮食品	・3、4年前あまりに悪かった売上が、昨年より少しずつ改善されてきている。冬には仕入価格が下がるが、昨年よりは下がらないので卸売が良くなかった。
化粧品	・プレミアム商品券の利用が多かった事は有難いが全体的には消費は厳しい。消費税の増税は今後に向けて不安である。
書籍・木のおもちゃ	・個人消費が上昇しない限り、当分厳しい状況は続くと思う。少しでも店に足を運んでもらえるようなアピールをしていきたい。 ・地元の出版社の廃業が決まった。業界全体の厳しさが増しても出版文化が消える事はないだろうが再編成は進みそうだ。副業も含めて頑張りたい。
陶磁器	・市民祭は天候にも恵まれ例年通りの人出があった。年末を控え、もともと暇な時期だが、消費者に対して適切なPRをすれば購入してもらえる。しかし、そのポイントを見つけるのが難しい。
印章	・責任は誰に、「同形」の出来合印は世間に大量に存在する。作る人、使用する、受付する機関、犯罪に使う人、実際に機械を用意して同形印を作って使用した警察官が逮捕された。一体誰が責任を取るのか。幸い松本市は同形印の登録を認めていないので、市民を守る為に立派である。 ・商工会議所の経営指導員の方のアドバイスを始めとして、大勢の方の意見やコンサルタントを受けたおかげで、かなり業績が良かった。年末から年度末にかけても、この好調を維持していきたい。
観光物産	・上高地の売店が早期に閉めるため旅行コース変更があったので、団体昼食のキャンセルが多かった。中旬以降の車の通りが少ない。
味噌・しょうゆ	・暖冬で漬物用への動きが悪い。
タイヤ	・暖冬の影響が売上の減少につながるのでは、このまま続くか気になるところがある。
薬局	・店は静かな1ヶ月だったが、天気が良かったので人の出はあった。12月に期待したい。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 30.0	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5	▲ 11.1	0.0	7.2	▲ 28.6
販売客数	▲ 30.0	0.0	▲ 11.1	36.4	8.3	0.0	6.7	▲ 7.1	▲ 6.2	0.0	0.0	0.0	▲ 28.6
販売客単価	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 9.1	▲ 8.4	▲ 16.7	▲ 13.3	▲ 21.4	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 5.9	▲ 7.1	▲ 28.6
営業利益	▲ 40.0	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2	▲ 11.1	▲ 11.8	0.0	▲ 28.6
見通し	▲ 30.0	▲ 27.3	0.0	36.4	16.7	16.7	▲ 6.6	14.3	12.5	▲ 22.2	5.9	0.0	▲ 7.2

<経営者の目・見方・e t c >

寿司

- ・11月1日は「すしの日」、お客様のお徳用メニューなのであまり利益は見込めな
いが常連さんの他に新規のお客さんが増えれば今後に繋がっていくと思う。これ
からもイベントを計画して集客に繋げていきたい。
- ・忘年会予約が減少している。

そば

- ・11月は後半の連休までは良かったが、その後はピッタリと観光客の足が途絶え
た。これから3月中旬まで長い信州の冬が待ちかまえる。夜の宴会等地元のお客
様の消費が少なく先行き不透明である。

郷土料理

- ・極端に静かな月となった。集客数が減少して売上高も前年度比を下回った。

料理

- ・七五三、お宮参り、法事等の土、日曜日の慶弔は、需要が好調であったが、週中
頃の法人企業の宴席は依然として回復してこない。
- ・漬物シーズンを迎えたが、暖冬の影響で季節感が薄れてきているため、時季に
合う料理をお客様に提供していきたい。

レストラン

- ・消費税の8%と10%の混乱による事務処理の手間が心配である。



仕出し料理

- ・暖冬のため野菜全般の価格が安定していて助かった。

中華料理

- ・忘年会前の11月という事で夜宴会が少なかった。しかし、12月の忘年会早期予
約件数も芳しくない。

6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヶ月
				
やや低調	やや低調	やや低調	やや低調	まあまあ
(各項目別前年同月比)				

【項目別DIの推移】

	26年11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 5.0	▲ 24.3	▲ 19.5	▲ 5.7	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0	▲ 20.4	2.2	13.1	▲ 9.5
販売客数	▲ 15.0	▲ 21.6	▲ 25.0	▲ 11.4	▲ 2.5	12.2	2.1	▲ 14.9	4.0	▲ 25.0	0.0	8.7	▲ 9.5
販売客単価	▲ 10.0	▲ 5.4	▲ 11.1	▲ 11.4	▲ 2.5	4.9	0.0	▲ 4.2	▲ 2.0	▲ 18.2	6.8	8.7	▲ 4.7
営業利益	▲ 20.0	▲ 29.7	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0	▲ 18.1	▲ 13.7	8.7	▲ 9.5
見通し	▲ 2.5	0.0	2.7	14.2	0.0	2.5	▲ 2.0	0.0	10.0	9.1	6.9	2.2	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

温泉旅館

・10月までの売上と比べると、11月は最悪だった。

ホテル

・企業の周年行事は例年多い月ではあるが小、中規模については動きが鈍い。
・宿泊については祝日の日並びで去年より減少した。宴会についても少し減少した。但し、例年に比べ相対的には悪くなかった。

美容

・業界的に11月は静かな月なので、その分12月に期待したい。12月は自分へのご褒美的に利用される方もいるので、プラスのメニュー、シャンプー、トリートメントなど物販にも力を入れて単価UPにつなげたい。

理容

・毎年11月は景気の落ち込みがあるが今年は特に悪かった。12月に何処まで挽回できるか年末に期待したい。

獣医

・犬(猫)には、耳が立っていたり垂れ下がっていたりと様々な形態をしている。耳の病気で受診率の高い原因として酵索性、細菌性、寄生虫性、アレルギー性、体質によるものなどがあげられる。従って、原因によって治療法が変わってくるので、無診断的療法で悪化させない事が重要である。また、耳垢性の物は食べない、耳はきれいにしておく事も大切である。

ペットサービス

・来店数、売上共に前年を下回ったが、物販の売上は好調であった。年末の繁忙期に向けて社員の健康管理に気を配りたい。

測量・設計

・公共事業関係の仕事の動きが少ない。

ソフトウェア

・今後、消費税率の変更を始めとする企業活動の見通しが活発になると思うが、一方でITを活用する分野もより広範囲で国際的に利用できるシステムを求められる。しかし、現状のような大手、下請けの構造では理想と現実の乖離に危惧を覚える。

タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・上高地、乗鞍方面の観光地での営業は中旬で終了し、全車が市街地での営業となった。オート燃料価格、ガソリンは値下がりになったが、LPガスは逆に値上がりとなった。
自動車整備・板金塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・灯油やガソリンの価格が少しずつ安くなり、昨年とは少し違う気がする。消費者にとってはありがたい事で冬に向けて元気になる事を期待したい。
マナー講師	<ul style="list-style-type: none"> ・特に変化のない月であった。秋から冬にかけては動きが少ないので何か考えていかなければいけない。
機械設計	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に向けて仕事が多くなってきた。仕事量の波が大きく大変だが、何とかやるしかない。

